

---

## 中学校へ「出前授業」に行ってきた 村田憲治@山県高校

---

もう昨年のことになるが、地元の中学校の「進路学習」の一環として行われた『いろいろな職業の人と語る会』に招かれて、講演ならぬ公演（笑）をやってきた。

その中学校の校長さんから、うちの校長に「高校教師 という職業人として語ってもらいたいのだが、山県高校で誰かいい人はいないか」という依頼があったのだ。数週間前、僕が授業で「浮かぶアンパンマン」をやって遊んでいるときに校長が教室に迷い込んできて、いっしょになって楽しんだこともあって、その依頼がきたとき校長のアタマには僕の顔がポッと浮かんだらしい。

「僕は 話 なんてできませんよー。 実験 でいいならできますけど・・・」と答えたら、それでいいということだったので、他に断る理由もないし、引き受けることにした。

30分の持ち時間らしいから、「レンガ割り」から入って、次に「皿回し」で、トリは「アンパンマン」だな、とメニューはスッと決まるのだが、いつもと違って今回はひとりでやらなくちゃならん。ちょいと不安がよぎる。

「事前に打ち合わせがしたい」という連絡が入ったので、割れたビール瓶とコンクリートブロックを持って行った。中学の先生は「なんだなんだ？」という顔をして迎えてくれた。ふつうの講師は割れたビール瓶なんか持ってきたりしないよなあ。

「もし生徒さんが裸になってくれなかったら、先生が裸になってくださいね」というのが打ち合わせの内容だ。どういう打ち合わせだ。

当日の朝、粗大ゴミにしか見えない掃除機・アンパンマンのビーチボール・自転車の車輪等を満載して中学校に出向いた。「ガラクタばかり持ってきてごめんなさいねー」とあやまりつつ荷物を下ろしていると、先生たちがあきれ顔で搬入を手伝ってくれた。

「あ、紙ヘビを作ってくるのを忘れた」と、控え室でハサミを借りて作業をしてたら、本日のマトモな講師の方々（プログラマー、公務員、自衛官、警察官、看護師、新聞記者、ツアーコンダクター、保育士、美容師、調理師）が少しずつ集まり出す。

「なんかヘンなことしてるやつがいるゾ」という冷やかな視線を背中に感じながら、それでもヘビをつくっていると、美容師の方と保育士の方（ともに50代後半とお見受けした）に

「あの、それはいったい・・・、何をお作りに・・・？」と尋ねられた。

「これ？ 面白いですよ～。ちょっと指を出してもらえますか？」と彼女の指をパックリ。

「きゃ～！ 何これ～！！ (^0^)」

「良かったら作り方をお教えしましょうか？」

「ぜひ！ 孫にいいお土産ができるワ！」

突然、控え室の片隅で『紙ヘビ製作講習会』が始まってしまった。何しに行つとるのだ。

時間がきて教室に案内されると23人のかわいいお子さまたちが拍手で迎えてくれた。いきなりの笑顔。『本丸』ではありえないことなので少々どぎまぎする。自己紹介もそこそこに「レンガ割り」を始める。

「誰かやってくれるかな～」と投げかけて、少々待ってみると元気な男の子が手を挙げてくれた。事前に頼んでおいた先生をチラとみると、ホッとした表情。(笑)

とにかく反応のいいこと！ この日は日曜参観でもあったので、廊下を通りかかる父母の皆さんも「なんだなんだ、何やってるんだ？」とみんな立ち止まってのぞき込んでくれる。

レンガ割りとアンパンマンさえあれば、誰だって(僕だって)1時間の授業を成立させることができる。でも1年間もたせるのは大変だ。中学の先生には悪いことをしてしまったかもしれない。『『本丸』じゃ、ちっともうまくいってないんですよ』と言うのを忘れてた。後悔。

先生の話聞いて、というか実験を見てですが、自分の予想があっていたのはひとつだけでした。あとは自分の考えを見事にひっくり返されました。僕はもともと理科は好きですが、先生の話聞いてもっと好きになりました。自分の予想が外れることがこんなに楽しいとは思いませんでした。

私は先生の話聞いてたくさん学んだことがありました。一番印象に残ったのは、「勉強はちょっとたいへんなときもあるけど、それを乗り越えるともっとすばらしい世界が見えてくるんだよ」というものです。理科・科学の力でみんなを驚かす気持ちを私も味わってみたいです。あの1日で私は理科が大好きになりました。



先生がやってくださった実験で一番印象に残っているのは、ビール瓶の破片の上に裸で横になってその上でレンガをハンマーで割る実験です。テレビとかでやっているのを見たときは「やってる人が特殊なんだ」とか「インチキじゃないの?」と思っていました。だけど本物を目の前で見て、さらに誰にでもできると聞いてすごい感動しました。こういうふうに生徒を感動させることのできる教師という仕事はすごくいいなあと思いました。